

学校法人桜花学園
名古屋短期大学
機関別評価結果

平成 21 年 3 月 24 日
財団法人短期大学基準協会

名古屋短期大学の概要

設置者	学校法人 桜花学園
理事長名	大谷 恩
学長名	今榮 國晴
A L O	松浦 照子
開設年月日	昭和30年4月1日
所在地	愛知県豊明市栄町武侍48

設置学科及び入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
保育科		240
英語コミュニケーション学科		80
現代教養学科		105
	合計	425

専攻科及び入学定員(募集停止を除く)

専攻科	専攻	入学定員
専攻科	保育専攻	10
専攻科	英語専攻	7
	合計	17

通信教育及び入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

名古屋短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成 21 年 3 月 24 日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成 19 年 6 月 22 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

当該短期大学は昭和 30 年に設置された、半世紀余の歴史を持つ地域に根づいた短期大学である。その建学の精神は「心豊かで、気品に富み、洗練された近代女性の育成」を掲げ、それに依拠した教育理念は学園創始者の志である「信念ある女性の育成」を目指している。当該短期大学を構成しているのは、保育科、英語コミュニケーション学科、現代教養学科、専攻科保育専攻、専攻科英語専攻の 3 学科、1 専攻科 2 専攻である。

教育内容は、体系的に編成された教育課程を有し、学生の多様なニーズにこたえられる免許・資格取得への配慮がされている。11 年前から学生による授業評価が実施され、平成 19 年度から「FD 委員会」を設置し、組織として授業改善に取り組んでいる。

教育環境も十分に整備され、教員組織も優れた資質を持つ教員を配置している。図書館についても蔵書数、司書の配置を含むサービス体制も充実し、学生の利用も活発である。

卒業時の満足度調査で学生の満足度が高いことが明らかになっており、退学率（3 パーセント弱）の低さがこれを裏書きしている。また、就職率については、とりわけ専門職就職率が高く、卒業生の評判も良好である。

入学時の新入生オリエンテーションや学科別の「宿泊セミナー」、学生会の「たてわり合宿」などが充実しており、高い課外活動加入率（約 80 パーセント）は、卒業時の満足度（90 パーセント以上）に反映している。当該短期大学側の「学生委員会」と学生代表による「特別委員会」との合同会議である「二者懇」の存在は大きく、学生の意欲と能力を組織的に引き出している。その結果、大学祭には近隣地域から毎年 8000 人から 1 万人の参加者があるという事実は特筆される。

研究活動が極めて活発であり、科学研究費補助金を含めた学内外の研究資金を取得する実績をあげている。

社会的活動についても活発に進められている。とりわけ、保育科を中心に運営している「保育子育て研究所」による地域子育て家庭を対象とした「子育て交流会」については年間 2000 人以上の市民が参加している。公開講座や豊明市教育委員会との提携による学生のボランティア参加、名古屋市生涯学習推進センター主催の大学連携講座にも参加してい

る。

管理運営面については、理事長のリーダーシップが適切に発揮され、管理運営に関する理事会と当該短期大学と意思の疎通が図られ、理事会、評議員会は寄附行為に基づき適正に開催、運営されている。

財務情報は公開されており、教職員には法人ニュースで開示している。短期大学部門の消費支出率は低く、教育研究経費比率も妥当な水準にある。

大学評価委員会を平成4年度に立ちあげ、自己点検・評価活動を実施し、以後は相互評価、当該短期大学独自の外部評価も行われている。

2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質の保証を図り、加えて短期大学の主体的な改革・改善を支援して、短期大学教育の向上・充実に資することにある。そのために、本協会の評価は、短期大学評価基準に基づく評価、すなわち基準評価的な性格に加え、短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する評価、すなわち達成度評価的な性格を有する。前述の「機関別評価結果」や後述の「領域別評価結果」は短期大学評価基準に従って判定されるが、その判定とは別に、当該短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する観点から、本協会は以下の見解を持つ。

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らしたとき、本協会は、当該短期大学の取り組みのうち、以下に示す事項については優れた成果をあげている試みや特に特長的な試みと考える。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 学生1人あたりの年間の図書貸出し数が18.2冊となっており、学生の図書館利用の背後には、司書数など図書館のサービス体制も充実し、学生の要求にこたえる図書館作りや学科と連携して図書館利用のための講座を開催するなど教職員の優れた指導によるところが大きい。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 学生の免許・資格取得率が高く、教育課程とは別に各種の資格試験対策授業も設けている。全国平均を上回る就職率が維持され、特に保育科の学生の専門職就職率と公務員保育職採用の占める割合は高い。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 活発な課外活動を支援する「二者懇」の存在意義が大きく、自主的活動が継承されにくい短期大学にあって、多数の学生の意欲と能力を引出している。大学祭に近隣地域から毎年8000人から1万人に近い参加者を集めて開催していることは特筆される。
- 就職支援における担当教職員の連携強化と職員の負担軽減を目的とした「就職支援シ

システム (career mate)」を開発・導入している。

評価領域Ⅵ 研究

- 科学研究費補助金が毎年 2 件ないし、3 件採択されていることは、教員の研究意欲をよく物語っている。愛知県内の外部資金による助成も平成 17 年度以降、毎年 1 件ないし 2 件が採択されている。学内の特別研究費制度も毎年 10 人前後が利用し、研究活動は極めて活発である。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 保育科を中心に運営している「保育子育て研究所」の活動や豊明市教育委員会との提携、公開講座が学内で開催されている。平成 19 年度からは名古屋市生涯学習推進センター主催による大学連携講座に参加している。

(2) 向上・充実のための課題

本協会は、以下に示す課題などについて改善がされれば、当該短期大学の教育研究活動などの更なる向上・充実が期待できると考える。なお、本欄の記載事項は、各評価領域(合・否)と連動するものではないことにご留意願いたい。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 保育科の一部の授業科目において、1 クラスの履修人数を教育効果が十分にあげられるよう、適切なクラス規模とすることが望まれる。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 教授会は学則・教授会規程の規定に基づいて開催し、短期大学の教育研究上の審議(諮問)機関として適切に運営されたい。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

3. 領域別評価結果

各評価領域の評価結果(合・否)を下表に示す。また、それ以下に、当該評価領域を合又は否と判定するに至った事由を示す。

評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ 教育の内容	合
評価領域Ⅲ 教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ 学生支援	合
評価領域Ⅵ 研究	合
評価領域Ⅶ 社会的活動	合
評価領域Ⅷ 管理運営	合
評価領域Ⅸ 財務	合
評価領域Ⅹ 改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

当該短期大学は昭和 30 年に設置された、半世紀余の歴史を持つ地域に根づいた短期大学である。その建学の精神は「心豊かで、気品に富み、洗練された近代女性の育成」を掲げ、それに依拠した教育理念は学園創始者の志である「信念ある女性の育成」を目指しており、学園創設者の持つ宗教精神（浄土真宗大谷派）によるところが大きい。学園創設は明治 36 年であり、100 年余の教育実践を支えてきた歴史的重みのある建学の精神であり教育理念であると受け止めることができる。

当該短期大学を構成している各学科とも、学科固有の教育目的、教育目標をかかげてその具体化の努力がされている。

さらにその達成度と教育効果についての点検を必要に応じて検討が行われている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

教育内容はよく整備され、学生が学びやすい体制がとられている。教育課程は体系的に編成され、学科の中心となる科目には専任教員が配置されており、その授業は短期大学にふさわしい内容となっているが、保育科の一部の授業科目について、1 クラスの履修人数を教育効果が十分にあげられるよう、適切なクラス規模とすることが望まれる。教育課程は学生の多様なニーズにこたえるものになっており、免許・資格取得への配慮がされ、講義、演習などの授業形態、選択・必修のバランスが適切にとられている。

学生に配布されるシラバスには、授業計画、授業内容、教育方法などが記載されており、学生は戸惑うことなく授業を受けることができる。

11 年前から授業評価に取り組んでおり、教員はその授業評価をもとに授業改善を行って

いる。また平成 19 年度には「FD 委員会」を設置し、組織として授業改善に取り組んでいる。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

当該短期大学の学生は、整備された教育環境の下で優れた教育力を持つ教員から、教育を受けることができる。各学科は短期大学設置基準を上回る教員を配置している。また教員の個人調査を通して、教員は学位、教育実績、研究業績などいずれの領域でも短期大学教員にふさわしい資質を有していることが読み取れる。

教育環境も十分に整備され、校地・校舎が短期大学設置基準を満たしていることは当然であるが、パソコン教室など現代的設備も充実している。図書館のサービス体制も充実している。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

卒業時の満足度調査で学生の満足度が高いことは、教職員が授業内外で細かな指導・支援をしていることがうかがわれ、退学率の低さがこれを裏書きしている。各学科も満足度調査を継続実施し、分析結果の共有、研修会の開催などで授業内容の向上に努めている。

学生の免許・資格取得率が極めて高く、各種の資格試験対策授業が設けられ、学生のニーズにこたえている。

保育科学生の専門職就職率が良好であり、うち 40 パーセント以上が公務員保育職採用であることは特筆される。他の学科も就職率が高く、幅広い企業へ就職している。

評価領域Ⅴ 学生支援

入学時の新入生オリエンテーションや学科別の「宿泊セミナー」、学生会の「たてわり合宿」などが充実しており、その成果は高い課外活動団体加入率（約 80 パーセント）、卒業時の満足度（90 パーセント以上）につながっている。基礎学力の補習授業はないが、言語科目で習熟度別クラスが実施され、課外で「TOEIC CLUB」や「就職試験対策講座」が提供されている。

学習・生活上の悩みにゼミ担当者、学科会議、兼任のカウンセラーが連携して対応する体制が取られ、生活全般に対する支援は学生委員会の担当教員と学生課職員を中心に福利厚生、自治活動、健康管理などに適切な配慮がされている。

学生の活発な課外活動の背後には当該短期大学側の「学生委員会」と学生代表による「特別委員会」との合同会議である「二者懇」の存在が大きい。

高い就職率を維持するために、「就職支援システム (career mate)」が導入され、一層の効率化が図られている。

評価領域Ⅵ 研究

教員各自の専門領域に関する研究活動、担当科目にかかわる授業改善のための研究活動がともに活発に行われている。科学研究費補助金が平成 17 年度 2 件、平成 18 年度 3 件、平成 19 年度 3 件がそれぞれ採択されている。愛知県内の外部資金による助成も平成 17 年度以降、毎年 1 件ないし 2 件が採択されている。学内の特別研究費制度も毎年 10 人前後が利用し、研究活動は極めて活発である。毎年大部の『名古屋短期大学研究紀要』と『保育子育て研究所年報』が発行され、多くの研究や実践が報告されている。

評価領域Ⅶ 社会的活動

保育科を中心に運営している「保育子育て研究所」の活動や豊明市教育委員会との提携、公開講座が学内で開催されている。平成 19 年度からは名古屋市生涯学習推進センター主催の大学連携講座にも参加している。大学祭に 8000 人から 1 万人の地域の市民が参加している。

評価領域Ⅷ 管理運営

理事長のリーダーシップが適切に発揮され、管理運営に関する理事会と当該短期大学との意思の疎通が図られ、理事会、評議員会は寄附行為に基づき適正に開催、運営されている。当該短期大学と併設四年制大学の保育学部との合同での教授会、各委員会の運用は、それなりに効果的に運営されてきたと考えるが、まったく別の組織として、権限と責任の明確化が図られることが望ましい。

事務運営は適切な規模で適切に行われ、就業規則、給与規程などが整備され、就業環境、健康管理、就業時間管理は適正に行われている。

評価領域Ⅸ 財務

財務について、予算の立案、執行など適正に行われており、公認会計士と監事により、適切に監査されている。財務情報は公開されており、教職員には法人ニュースで開示されている。短期大学部門の消費支出比率は低く、教育研究経費比率も妥当な水準にある。

必要な施設設備が整備され、関連の規程、コンピュータ・システムを含む非常時対策について整備、計画され、環境保全対策も実施されている。

評価領域Ⅹ 改革・改善

大学評価委員会を平成 4 年度に立ちあげ、「名古屋短期大学の現状と課題」と題した報告書を公刊し、関係機関に配布している。

さらに、平成 14 年度には光星学院八戸短期大学と相互評価を行っている。平成 19 年度には外部評価員として常葉学園理事、愛知県社会福祉協議会副会長、豊明市学校教育課長、中日本自動車短期大学前学長に依頼し、外部評価を実施している。

このように活発な自己点検・評価活動を実施し、平成 21 年度には常葉学園短期大学との相互評価を予定している。